

# 湯立神楽の意味と機能

遠山霜月祭の考察

鈴木正宗

Meaning and Function of Yutate Kagura:  
The Reflection of Tōyama Shimotsuki Matsuri (November Festival at Tōyama Area) in Nagano Prefecture of Japan  
SUZUKI Masataka

はじめに

- ①祭の地域的展開と共通性
- ②遠山霜月祭の特徴
- ③冬の到来
- ④起源伝承
- ⑤供物と湯立
- ⑥山と竈と土公神
- ⑦五大尊法と不動明王
- ⑧九字護身法
- ⑨立願と湯立
- ⑩死霊の鎮めと湯立
- ⑪湯立とは何か

## 【論文要旨】

長野県飯田市の遠山霜月祭を事例として、湯立神楽の意味と機能、変容と展開について考察を加え、コスモロジーの動態を明らかにした。湯立神楽は密教・陰陽道・修験道の影響を受けて、修験や巫覡を担い手として、神仏への祈願から死者供養、祖先祭祀を含む地元の祭と習合して定着する歴史的経緯を辿った。五大尊の修法には、湯釜を護摩壇に見立てたり、火と水を統御する禰宜が不動明王と一体になるなど、修験道儀礼や民間の禁忌意識の影響がある。また、大地や土を重視し竈に宿る土公神を祀り、「山」をコスモロジーの中心に据え、死霊供養を保持しつつ、「法」概念を読み替えるなど地域的特色がある。その特徴は、年中行事と通過儀礼と共に、個人の立願や

共同体の危機に対応する臨時の危機儀礼を兼ねることである。中核には湯への信仰があり、神意の兆候を様々に読み取り、湯に託して生命力を更新し蘇りを願う。火を介して水をたぎらす湯立は、人間の自然への過剰な働きかけであり、世界に亀裂を入れて、人間と自然の狭間に生じる動態的な現象を読み解く儀礼で、湯の動き、湯の気配、湯の音や匂いに多様な意味を籠めて、独自の世界を幻視した。そこには「信頼」に満ちた人々と神霊と自然の微妙な均衡と動態があった。

【キーワード】神楽、湯立、霜月祭、コスモロジー、修験